

頃には、この由緒ある寺は、荒廃し、僅かに雨、露を凌ぐほどに落莫したが、深宣という僧侶が再興して昭和50年代まで続いた。現住職山川龍舟師は、中興の祖宥眞法師より数えて三一世に当る。山川師は、本堂の損傷が甚だしいので再建を思い立ち、門信徒の理解と協力によって昭和六十年、立派な現本堂が完成された。地藏院の門信徒のほとんどは、走島町の町民で水上水軍の子孫で、大壇越（大施主）の一人に観光鯛網で名高い村上太郎兵衛氏がいる。

なお、寺宝として伝えられている古文書には、一、徳川將軍家よりの祈禱申付書、一、天正十八年、武田信玄の一族、武田兵部奉納の大磐若経。一、福島正則奉納の両蔓茶羅（金剛界、胎藏界）。一、毛利輝元奉納の唐画涅槃像などがある。

ご本尊は、地藏菩薩で、これにより地藏院の名がある。」と伝承されている。

昭和60年、本堂完成にともない側仏として、納戸に納められていた十一面観音像を安置した。

像は、木彫寄木造り、岩座（43 cm）上の立像で、円光背付、像高 148 cm、肩幅 27 cm、右後方に錫杖を立て、左手には蓮華付水瓶を握っている。頭上化物十一面は完存し、額中央に白毫を嵌め、眼には玉眼を入れ、温顔で笑みを湛えている。特徴あるのは口元で、口唇が開き、上顎中切歯2本が見えることである。すなわち「歯相が認められることである。

なお、脇侍は右が不動明王で、左は毘沙門天である。眞言宗派では、右が不動明王で、左は愛染明王が普通であるが、軀、浦周辺の眞言宗派の寺では、地藏院の配置と同じである。

歯吹如来像との比較について

昭和51年5月23日、第4回日本歯科医史学会総会において、「歯吹如来造像の疑問点について」と題して、歯相が特に認められる阿弥陀如来について、その造像上の問題点を解明した。

その際、造像上の特徴として

1. 歯相の表現（把富喜・歯吹）
2. 仏足文（千輻輪相）・憂喜安志、浮足
3. 立像において足裏に衲をつくらず、別に金

属の支柱を裾底に立てる。

の3つの共通する特長がみられた。

このような把富喜如来、憂喜安志の尊像にみられる表現は、応身仏の具えた三十二種の優れた相好、すなわち、三十二相をでき得る限り表現しようと努めた像である。

したがって、地藏院十一面観音菩薩は、歯相のみ見られるのみで、他の特徴がみられない。現在、このような歯相のみられる観音菩薩が他にもあるか、また、歯相のみを現わしたのは、なぜかについて調査中である。

16) 風流今様曾我について（その2）

Furyuimayosoga (Part 2)

東京医科歯科大学 本山佐太郎

Sataro Motoyama, Tokyo Medical and
Dental University

1. 東京医科歯科大学所蔵：

「風流今様曾我」に所載されている「御歯薬」の看板のある見世が画かれている挿絵は、貞享、元禄（1684-1704）頃に描かれた風俗画とほぼ断定した事は「前回の日本歯科医史学会（第16回学術大会）」で報告した。

今回は“この場所が何処であるのか”を述べてみたい。

四之巻一冊のみの零本で……本文は僅か七丁、十四頁の限られた紙面から場所と思われる箇所を抽出してみると

- イ）鬼助兄弟竹町のしまい物や
- ロ）並木の茶やに立入り、酒をのんで遊び居たり
- ハ）早ばやに山を出るか
- ニ）山にて毎月出合ます
- ホ）山もさみしゅう

以上から京都、浪速ではなくて江戸の市中と推定される。

2. 享保20年（1735）版「続江戸砂子温故名跡誌」巻之二

- 1）並木町……浅草寺の大門先也。両がは料理

茶屋。うどんそば切り。ならちゃ等の茶屋
多し

2) 材木町……千住海道の大道也。俗に竹町と
云。即ち紙面の竹町は材木町の事である。

延宝7年(1679)版……貞享より5年前刊行の
江戸図

浅草寺付近……千住入口に到る材木町

拡大図……浅草寺大門先。並木町ちゃ、竹丁の
舟わたし

享保5年(1720)版……元禄より16年後刊行の
江戸図

浅草寺付近……

拡大図……並木ちゃ丁、材木町

3. 東京都立公文書館所蔵:

幕府普請奉行編:「御府内往還其他沿革図書」…
弘化2年(1845)調

宝永7年(1710)の地形である。

材木町に住む主人公が、並木町の茶屋で酒を飲
んで遊び居たり、毎月山で出会う。

4. へ) けふは廿四日のあたご様のご縁日、参
詣の人込

「続江戸砂子」…卷之一…六月の項に廿四日…愛
宕千日祭

5. 国立公文書館所蔵:

寛文2年(1667)版……貞享より17年前刊行の
「江戸名所記」

愛宕得……そもそも山城国愛宕山は、地藏、竜
樹、摂化の地として～ ～とをく東関江府の地に
勧請あり

愛宕社の挿絵

6. 延宝7年の江戸図にある愛宕付近

拡大図…石段有りと注

享保5年の江戸図にある愛宕付近

拡大図…石段。鳥居の図

7. 愛宕神社の縁起

鎮座……慶長8年(1603)

嘉永2年(1862)……江戸大火災

明治10年(1877)……再建

大正12年(1923)……関東大震災

昭和20年(1945)……空襲

昭和33年(1958)……再建

千日詣り

この日参拝すれば平日の千日の御利益がある
と、大勢の人の参拝あり

8. 安政5年(1858)……イギリス人フェリック
ス・ベアト撮影の愛宕社と現在の愛宕神社を比較
正面八十六段の男坂は当時のままである。

9. 国立国会図書館所蔵:

天保9年(1838版)……「東都歳事記」

長谷川雪旦画……六月廿四日…芝愛宕社…千日
祭

嘉永2年の江戸大火以前で本社、楼門、太郎坊
あり

出店、人出の賑わい

以上「風流今様曾我」の挿絵は貞享。元禄(1684-
1704)頃の六月廿四日芝愛宕社の千日祭である。

17) 神仙秘法について (1)

On the “Shinsen Hiho”, Mystery Paper
for Hare-lip Operation (17 Century ?)…1

北九州市 ○上瀉口 武
九州歯科大学 嶋村 昭辰

Kamigataguchi, T and Shimamura, A,
Kyushu Dental College

はじめに

華岡青洲(文化元年, 1804)より115年前わが
国、最初の全身麻酔下に行われた兎唇手術は、元
禄2年(1689)11月、琉球国の高嶺徳明(魏士哲)
が中国の福州に渡り、黄会友に師事して伝授され
た秘法であり、さらに翌元禄3年(1690年)高嶺
徳明から、薩摩藩琉球奉行所付医官伊佐敷道与
(寛文元年1661年～享保15年, 1739年)に伝授され、
道与は翌元禄4年秋に鹿児島に帰った。

この兎唇手術の事績は先人により数多く報告さ
れ乍ら、長い間、その実体を示す秘伝書の存在が
不明であり、幻の医術とされていた。

昭和61年3月、図らず川内市歴史資料館に、そ
の資料「神仙秘法」が発見され、各界より報告が
なされた。私共は63年5月、同館を訪れ館長の好
意により「神仙秘法」を調査することが出来、歯